

## 十津川道普請に参加して

数学教育専修 1 回生 堀口 大地

平成 25 年 12 月 7・8 日に奈良教育大ユネスコクラブとワンダーフォーゲル部、奈良コープ、ろうきんの三団体計 26 名で十津川村へ道普請のボランティアに行きました。私は今回の道普請で初めて十津川に行きました。そこで十津川村での被害の大きさを目の当たりにしました。

この十津川道普請に参加して得られたことがつあります。一つ目は社会人との交流です。二つはボランティアの有意義さです。

一つ目の社会人との交流はとても価値観が広がるものでした。往路のバス内でのレクリエーションから始まり道普請をしているときや自由時間にたくさんの人に声をかけてもらいました。また、夕食のまえにグループワークにて各個人の十津川村との関わりやボランティアを行う想いを聞き参加してよかったと思いました。聞いた想いの中には、「肩書きなど関係なく交流でき、学生時代を思い出した。」「ボランティアには会社のイメージアップでされているものであるが、この道普請は個人参加。助けあいの輪が広がっていけばよい。」というものがありました。このような意見は学生の私が考え付くものではなく、社会人との交流があつて広がった価値観だと思いました。

二つ目として、ボランティアの有意義さです。一般社会の常識では、「作業×時間＝賃金」という等式が成り立ちます。ボランティアはこの等式を逸脱しており、「作業×時間＝無給しかも参加料まで…」という等式になってしまいます。しかし、ボランティアは誰からも強制されるものではなく、自発性のものであります。社会の仕事と違って自分の時間世界で活動することができます。自分らしさもボランティアをすることによって出せるようになります。また、心にも余裕が生まれ、生活も心地よいものになると思います。

ボランティアの有意義さについてももう一つ考えたことがああります。中澤先生の講座にて「全国ボランティアの活動実態調査」によるとボランティア活動を通じて得たことやよかったことがあつたと回答した人は 98.3%だそうです。また、ボランティアをする人も年々多くなつているそうです。このことを聞いて、ボランティア活動をする人が点在しているのではないかと考えました。そして、この点在している人をボランティア活動を通して点が線になればもっと人と人とのつながりが増えるのではないかと考えました。これがサイクルしていけばよいサイクルが生まれてくるようになり社会がよりよいものになると思います。

以上の 2 点が十津川道普請で学んだことです。ただ道普請のボランティアをしただけでなく今後につながるいい経験ができた機会だと思いました。この経験を周りの友達にも気づいてもらいたいです。そして、次回の活動に生かしていきたいです。